

第3回 若手の集い開催報告

—土木技術のリノベーションを考える若手の集い—

生産性向上 WG

1. 目的

これまで、土木技術のリノベーション（時代に応じた既存技術の更新）について、関連する取り組みの調査と、土木系各業種で働く若手による討議「若手の集い」を実施してきた。これまで2回開催された「若手の集い」では、リノベーションのための課題が立場を超えて共有されるなどの成果を上げることができた。

第3回としては、経験豊かなベテラン技術者の方の視点を取り入れることにより、リノベーションに関する議論を若手の視点を超えて深めることを目的とする。

2. 参加者

若手 PU：片山，前田，田村

若手 PU 以外：東京工業大学の学生7名，岩波幹事長（企画委員会）

3. 実施日時とタイムテーブル

2018年6月19日(火) 15:00, 東京工業大学 緑が丘6号館 多目的室1

【第1部】

15:00～15:15 趣旨説明

15:15～16:15 講演「パワーアップは何から生まれる？」
(講師：大田孝二氏，道路の安全性向上協議会理事)

16:15～16:30 個人ワーク「30年後の土木は？」

【第2部】

16:40～17:40 グループワーク「30年後の土木構造物を描こう」

17:40～17:50 グループ発表・講評

【懇親会】

18:00～20:00

4. 実施状況

若手 PU の3名以外の参加者は東京工業大学の学生（3年生1名と構造・材料系研究室に所属する学生6名）であった。

講演「パワーアップは何から生まれる？」では、講師を務めていただいた大田氏より、ご自身のこれまでの歩みと若手への熱いメッセージをいただいた。狭い分野に視野を

狭めることなく、果敢に新しい技術に挑戦し、分からないことを質問できる信頼できる仲間を作ることの重要性が説かれた。

個人ワーク「30年後の土木は？」では、大田さまの講演でご紹介いただいた約30年前の状況と現在の状況から外挿させつつ、30年後の土木の姿を各参加者にA4用紙1枚に記述してもらった。30年後の働き方、業務内容だけでなく、学生の参加者が多かったため、大学で教える授業についても質問した。回答からは、AIや情報通信技術の進歩とその活用を思い浮かべた参加者が多かったことがわかった。

グループワーク「30年後の土木構造物を描こう」では、個人ワークで一人ひとりが考えた30年後のイメージをグループ内で交換し、具体的な構造物のイメージとその実現のための研究・開発についてA1の模造紙にまとめてもらった。河川からの浮力や磁力で浮き上がる橋や、物流における自動運転の普及を予想し自動運転に適した道路の再整備を考える参加者もいた。

懇親会では、岩波幹事長も加わり、正直に意見交換できる仲間の大切さを確認した。

5. 成果・所感

事後アンケートにおいては、参加者の多くが有意義な時間を過ごすことができたというポジティブな回答を行っていた。

大田氏の講演から、広い視野と好奇心をもって他分野にも果敢に立ち向かっていく姿勢の重要性を学んだという感想が多く得られた。グループワークからは、他人の考えを聞くことで、新しい発想を得られることを体験できたという意見も聞かれた。本企画への参加経験が、参加者の今後の糧となっていくことが期待される。

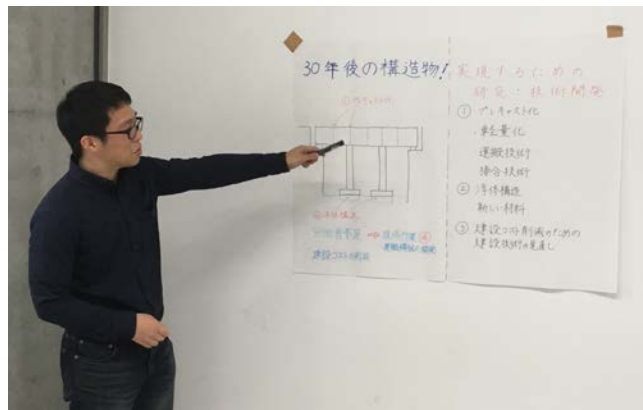
今回は、大学生が多かったため、実務の具体的な話を避けテーマを「30年後の土木」としたが、社会人の若手が多い場合にはより具体的なケーススタディ（例えば、仮想の事故や課題が発生した時、あなたはどうか対処するか？）に取り組むことで、より効果的な学び・気づきの場を提供できる可能性があると考えられる。



大田氏のご講演の様子



グループワークの様子



成果発表の様子(1/3)



成果発表の様子(2/3)



成果発表の様子(3/3)